

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『にがてだった給食』

愛知県刈谷市立小垣江東小学校 四年一組 女子 鈴木 茶和

もともと少食のわたしは、小学校に入ってから、給食の時間になると家に帰りたくなる気持ちでいっぱいでした。別にまずいとか、きらいな物がたくさんあるわけではないのです。食べるのもおそいし、みんなみたいにたくさん食べる事ができなくて悲しくなってくるのです。学校では、

「全員感謝、全員完食」

という行事があつて、すごくプレッシャーになつてしまつて、とうとう学校に行くのがいやになつてしまう事がありました。お母さんに、食べれる量を先生と決めてもらつて、私にあつた量にしてもらいました。そしたら、ペロツと給食を食べれる事ができて・・・。

何だかとても嬉しい気持ちになりました。

「さわちゃん、給食たべれている？」
つて、お母さんが毎日気にしてくれてくれました。朝、なみだがこぼれていたのにすごく自信もつて

「行つてきます」

と言えて、毎日が楽しくなりました。それから、三年間がたちました。私は今、給食の時間がとっても楽しいのです。好きなメニューはビビンバです。よくおかわりするの、やさしいのアーモンドあえです。最初に、少なめについてもらうのですが、好きなものは、たくさんおかわりもできるようになつて。ほんとにおいしい物がたくさんあつて、給食が大好きになりました。給食には、家でお母さんが作つてくれない物もたくさん出てきて、毎日のこんだてが本当に楽しみです。ちくわのいそべあげは、本当の事を言うと、お母さんが作つてくれるのよりもおいしいです。

「ママが作つてくれるのよりおいしかった」

つて言うと、お母さんは少しムツとするのであんまり言わないけれど、

「給食を作つてくれる人もみんな喜ぶ顔が見たいんだよ。さわちゃんもたくさん食べてないよね。」とよく言われます。

もちろん味はとってもおいしいのだけれど、みんなでおしゃべりしながら食べるごはんは、本当においしいです。何だかおしゃべりしながら食べてると、きらいな物でも気づかず食べれてしまう事もあります。ふだん、あまりお話ししない友だちとも、給食のメニューではなしがもりあがる事もあります。一年生の時には分からなかった事が、たくさん分かるようになりました。私もいつか、家族や友達や大事な人たちに、自分のつくったごはんを、残さずきれいに食べてもらえる時がきたら良いなって楽しみです。私が食べる量でなやんできた事も、人それぞれちがう事をちゃんと理解しながら、給食を配る事も気をつけていきたいと思ふし、おいしく作つてくれる人がいる事に、感謝する気持ちも忘れないように心がけて、おいしくて楽しい給食の時間にしていきたいです。